令和7年度（2025年度）

日野市環境基本条例第18条に基づく年次報告書

日野市環境白書

（概要版）



日　野　市

日野市の環境に関するトピックス

令和7年度（2025年度）に実施した環境に関する取り組みや出来事の中から、注目すべきトピックスを取り上げました。

（1） 第2次日野市下水道プラン（後期計画）を策定しました

令和4年4月に策定した「第2次日野市下水道プラン」（計画期間：令和4年度から令和12年度まで）について、令和7年度に中間評価と計画の見直しを行い、第2次日野市下水道プラン（後期計画）を策定しました。

（主な見直し内容）

・昨今の気候変動により年々降雨規模が拡大しているため、令和8年3月に雨水管理総合計画を策定して浸水対策を強化

・能登半島地震を受けて令和7年1月に上下水道耐震化計画を策定し、災害対応能力を強化

・日野市下水道ストックマネジメント計画に基づく下水道管路の維持管理体制に関して、官民連携等も視野に入れた検討を推進

（2） 熱中症対策を目的にミストポールを設置、クーリングシェルターを開設しています

気候変動による近年の急速な温暖化の進行は「地球沸騰化」と言われており、特に夏季は最高気温が35℃を超える猛暑日が年々増加しています。令和7年度、市では気候変動適応策として、日野中央公園へミストポールを設置しました。「熱中症警戒アラート」の発令時期に合わせて運用致します。また、令和6年4月に改正された気候変動適応法に基づき、熱中症特別警戒アラートが発令された際に、一時的に暑さをしのげる場所として開放される施設「クーリングシェルター」を市内42か所に開設しました。



設置したミストポール

（3） 人口10万人以上50万人未満の市町村で「1人1日当たりのごみ排出量」が3年連続全国1位の少なさを達成しました

環境省は令和8年3月末に、令和6年度（2024年度）における全国の一般廃棄物の排出及び処理状況等の調査結果を発表し、日野市は人口10万人以上50万人未満の市町村で、「1人1日当たりのごみ排出量」が3年連続全国1位の少なさとなりました。市民の皆様からごみ減量のご協力をいただき、前年度のごみ量排出から7.8gを減らしました。市は、平成12年のごみ改革以降、「指定有料ごみ袋の導入」「マイバック運動」「生ごみ減量」「プラスチック類の分別収集」など、様々な減量施策を実施、現在に至っております。

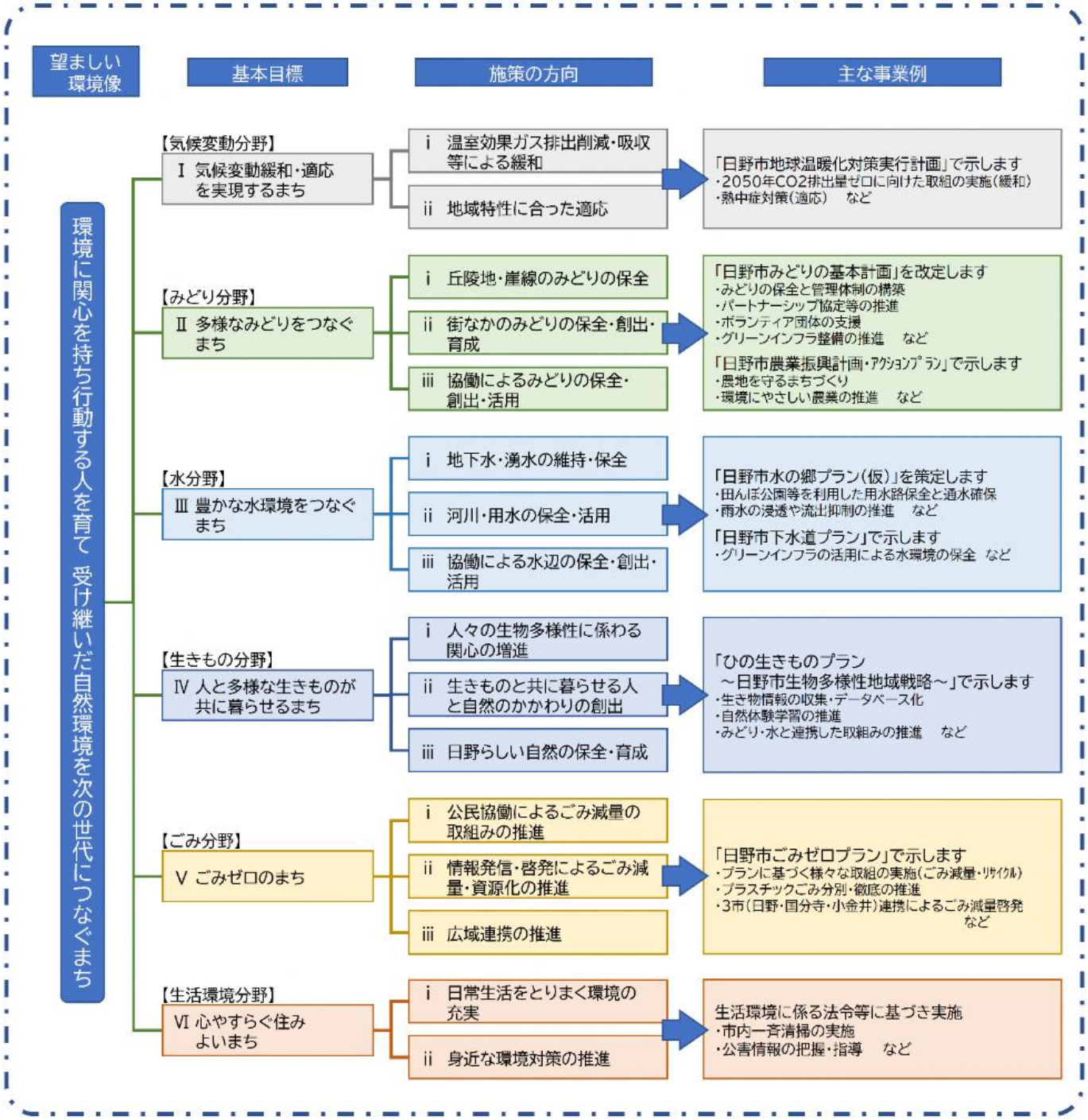
今後も「循環型のごみゼロの社会の実現」に向けて持続的に取り組んで参ります。



周知・啓発画像（ごみの少なさ全国1位）

第3次日野市環境基本計画に基づく取組状況

第3次日野市環境基本計画では、望ましい環境像を「環境に関心を持ち行動する人を育て受け継いだ自然環境を次の世代につなぐまち」としています。その望ましい姿に向かって日野市の環境に関するあらゆる施策は実行されています。また望ましい環境・基本目標の実現に向け、環境基本計画では施策の方向を示しています。概要版では施策の方向に沿って、各実行計画で実施した事業、これからの取り組みを報告します。取組進捗状況の目安となる代表的な指標を各分野に掲載していますので、ご参照ください。



第3次日野市環境基本計画 施策体系図

気候変動分野

＜目標＞気候変動緩和・適応を実現するまち

（1） 代表的なデータ【日野市の二酸化炭素排出量】（白書：P4）

目標：2030年　二酸化炭素排出量　46％削減（第4次日野市地球温暖化対策実行計画）
（基準年2005年比　二酸化炭素排出量797kt-CO_2）

2022度	2023年度
532kt-CO_2（33.2%削減）	494 kt-CO_2（38%削減）
目標まで12.8%	目標まで8%

日野市内の二酸化炭素排出量は、年々減少傾向にありますが、家庭と業務部門はやや横ばいとなっています。家庭と業務部門の二酸化炭素排出量において、約7割が電力使用によるものです。

市では、家庭での電力と二酸化炭素排出量を減少させ、カーボンニュートラルを推進するため、省エネ家電買換え促進事業を実施し、家庭部門における二酸化炭素排出量約34，000[kg-CO2/年]を削減しました。

（市 HP）日野市省エネ家電買換え促進補助金

みどり分野

＜目標＞多様なみどりをつなぐまち

（1） 代表的なデータ【市民1人当たり都市公園面積】（白書：P12）

目標：約7㎡（日野市みどりの基本計画）

2024度	2025年度
7.01㎡（目標より+0.01）	6.98 ㎡（目標より-0.02）

市民1人当たりの都市公園面積は、「市町村内にある都市公園の総面積」を「人口」で割って算出します。令和7年度は6.98㎡と令和6年度から0.03㎡減少しています。背景として人口が増加傾向にあるため、市民1人当たりの都市公園面積が減少しています。

今後は未供用の緑地等の供用開始に向けた整備計画やグリーンインフラの検討に引き続き取り組み、今後における市民1人当たりの都市公園面積の増加を図ります。

（市 HP）みどりの基本計画

水分野

＜目標＞豊かな水環境をつなぐまち

（1） 代表的なデータ【下水道処理人口普及率】（白書:P20）

目標:2030年度　98.1%（第2次日野市下水道プラン（後期計画））

2024度	2025年度
96.3%（目標まであと1.8%）	96.4%（目標まであと1.7%）

新設管きょの整備区域に対する供用開始を行いました。その結果、目標の下水道処理人口普及率は達成できませんでしたが、令和7年度末には普及率96.4%となりました。また、汚水未整備区域が残る浅川処理区の下水道処理人口普及率は、94.9%に達しました。

なお、下水道処理人口普及率が前期計画目標値に達成できなかった原因としては、土地区画整理事業の進捗（施行期間）に差異が生じていることが挙げられます。

（市 HP）第2次日野市下水道プラン（前期計画）

生きもの分野

＜目標＞人と多様な生きものが共に暮らせるまち

（1） 代表的なデータ（白書:P28）

みどり率　2022年度	30.1%（目標33%）
水質分析結果	15地点中15地点“きれい”と判定
アライグマ・ハクビシン（外来生物）捕獲件数	2025年度:79 頭捕獲（2024年度:57頭捕獲）

みどり率とは、樹林地・農用地・公園・緑地・水面の面積が地域全体面積に占める割合を指します。令和4年度は30.1%と、平成29年度から 0.7%減少しています。宅地が0.9%、道路が0.2%増加している一方、農用地が0.7%減少しています。

水質分析結果では、河川、用水路、流入河川15地点で「きれいな水質」と判定され、令和6年度に引き続き良好な水質を維持しています。

アライグマ・ハクビシンの捕獲件数は79頭と令和6年度に比べ約20頭増加しています。アライグマは一度に多頭を出産する繁殖力の強い動物です。農作物を加害するほか、人や家畜との共通感染症を蔓延させる恐れや、希少な在来生物を捕食する等、生態系への被害も懸念されています。

（市 HP）アライグマ・ハクビシンのよる被害でお困りの方へ

ごみ分野

＜目標＞ごみゼロのまち

（1） 代表的なデータ【1人1日あたりのごみ排出量】（白書：P37）

目標：2026年度までに550g/人・日以下（日野市ごみゼロプラン）

2024年度	2025年度
565g/人・日（目標まで15g/人・日）	549g/人・日（目標達成）

1人1日あたりのごみ排出量が「549g/人・日」と日野市ごみゼロプランの目標値を達成しました。

また、環境省が発表した全国の一般廃棄物の排出及び処理状況等の調査結果では、人口10万人以上50万人未満の市町村で「1人1日当たりのごみ排出量」が3年連続全国1位の少なさを達成しました。多摩地域全体では総ごみ量が前年比1.1%減った中、日野市は1.2%減少しました。可燃ごみは、人口増に関わらず微減を継続しています。

ごみ排出量最小自治体を維持するため、引き続き広報、情報誌による発信・啓発を継続・強化していきます。

（市 HP）ごみ排出量の少なさが3年続けて全国1位になりました

生活環境分野

＜目標＞心やすらぐ住みよいまち

（1） 代表的なデータ【公害苦情件数】（白書：P46）

2024度	2025年度
237件	183件

令和6年度の苦情相談では騒音・振動の件数は約半数を占めていましたが、令和7年度は、「騒音・振動」の苦情相談は全体の約4割でした。

引き続き、道路交通、工場・事業場・店舗や航空機などからの騒音や振動などの状況の調査や監視を行い、身近な環境問題の発生を防止します。

また本分野では、日常をとりまく環境の充実を図るため、市内一斉清掃や地域猫活動の推進、災害時のペット同行避難など、生活環境に関する問題を多角的に取り組んでいます。

（市 HP）公害苦情相談について

令和７年度（２０２５年度）
日野市環境白書（概要版）
日野市環境基本条例第１８条に基づく年次報告書

発行：令和８年（２０２６年）９月　日野市
編集：日野市　環境共生部　環境政策課
〒191-8686　東京都日野市神明 1-12-1
TEL　042-514-8294
URL　https://www.city.hino.lg.jp
身近な生きものと共生できる環境を次世代につなごう！